



令和2年12月

スクールカウンセラー 中野隆治



## 「ある一瞬」



今年もいつの間にか12月を迎えることになりました。コロナに明け暮れた1年のような気がしないでもないですが、みなさんに湧き上がる感慨はどんなものでしょうか。個人的な意見かもしれませんが、人生には「これは。」という一瞬があって、その一瞬を味わえば、他のどんな辛い時間でも、しのげることが出来るのではないかと考えています。

直近の経験で言えば、ある詩人の詩のこんなフレーズに、図書室の書棚で思いがけず出会った時、我にもあらず、満足感もしくは幸福感のようなものを覚えました。それだけでその日一日、いやもっと長く数日間、その感覚を持続出来そうな気がしました。こんな詩です。

花はいろ そして匂ひ

あなたはこころ

そして やさしさ

ほりぐちだいがく  
(堀口大學「人に」)

花の美しさと人の心の美しさを、その匂いまで添えて、見事に描き切っているような気がしました。優しい人になろう、心優しく生きようと、素直に思いました。

もう一つの例を紹介します。これも最近の体験です。

いつものように行くコンビニで、多分、マニュアル通りの対応をする店員さんと、金銭の受け渡しで応える客のシーンの中で、突然、「これだ。」という一瞬が出来たのです。いつもと違う品物を出された時、レジを打つ手をふと止めた店員さんが、「これおいしいんですね。わたしもよく食べます。」と、思わず言ってしまったというような顔で呟きました。それにつられて、「たしかにおいしいですね。」と、コンビニのレジの前で、係りと客が、個人的な感情の交換を思わずしてしまったというシーンでした。いつもと同じ店員さんが、いつものようなこれまでの事務的な表情を笑顔に変えているのを見て、マスク越しではあっても、ちょっとした共感が出来上がったのです。いい一瞬でした。図書室と同じ満足感や幸福感を、コンビニで味わったことになります。

人生は考えてみれば、無表情で黙々と過ごす時間と、表情豊かに自分の感情を露わにする時間との組み合わせで出来上がっているような気がします。どちらもなくてはならず、どちらも重要だと考えながら、日々を送って行くことをお勧めします。人生は豊かであれ、そう思うことが大事ではないでしょうか。